



izumi NEWS

学校法人 和泉短期大学

Vol.24
(2015年3月)



学長 佐藤守男

facebookページ開設中! 『いいね!』を押してください。

制作者 学長 佐藤守男 銅像『内なる響』

izumi NEWS Vol.24

和泉短期大学 広報渉外ユニット

発行責任者 理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1

TEL.042-754-1133 (代表)

URL.http://www.izumi-c.ac.jp

— 目次 — CONTENTS

特集 2015年度学校法人和泉短期大学の将来計画 2

izumi TOPIC	●第5回リカレント講座	3
	●入学前教育を受講して	3
	●相模原市協働事業提案制度	4
	●北里大学との共同プロジェクト子ども体験イベント	4
	●活躍する卒業生	5

2015年度 学校法人和泉短期大学の 将来計画

理事長 深町 正信



和泉短期大学は昨年度から12年間(4期)学長をされた伊藤忠彦先生から新たに学長として佐藤守男教授が新学長に選任されました。伊藤先生には今後とも、特任教授、チャプレンとしてご指導いただくこととしました。昨年、2014年の1年間は佐藤守男新学長のもと、和泉短期大学は教員と職員とが一致、協力して、和泉短期大学の新たな教育、研究の充実をはかり、日本でただ一つの児童福祉学科の単科短大としての発展をはかり、現在、直面している様々な具体的問題の解決に真剣に取り組んできました。

幸いにも、2015年度の学生募集も、多くの教職員、関係者の努力により、今年度の募集定員の250名を十分に満たすことができました。これらの入学して来る予定の学生達のためのプログラム「入学前教育」が今年度更に改善され、充実して、実施されることになり、大いに期待し、心強い限りであります。しかし、和泉短期大学の専攻科については学生定員20名を満たすことができるのかどうか、現時点ではまだはっきりと言えませんが、極めて厳しい数字ですので、次年度に向けて、今後ともどうするかを慎重に議論する必要があるかと思っています。

2013年度は、元老人福祉専門学校の校舎として使用してきた建物の「5号館校舎」を売却することとしました。その売却先は、現在、相模原市を中心として、約50余の事業所を大きく展開している社会福祉法人相模福祉村に譲渡することとし、建物の引き渡しを完了しました。この売却により得た資金はひとまず現預金として計上し、今後の和泉短期大学の新しいキャンパス構想の実現のため、つまり、現在の和泉短期大学校舎の周辺の土地整備のため、新たな土地を購入するときの資金の一部として使用することを決めました。

次に、隣接地にある和泉保育園が新しい園舎の建設に取り組むことになり、あちらの理事会から正式に、現在の和泉短期大学のテニス・コートの一部に、新園舎を建てる必要があるため、是非、その土地を貸して欲しいとの申し出が和泉短期大学に正式にありました。それは勿論、無償でということではなく、その土地使用料を支払うからとの申し出もあり、こちら側としても、現在の保育児童の受け入れが困難な状況に鑑みて、この申し出に出来るだけ協力することとしました。

この件は勿論、直接色々な影響を受ける近隣住民の方々も同意されました。和泉短期大学としては、少しでも地域住民の方々の子育てに、間接的であっても、これに協力することは近隣住民の方々に少しでもお役に立つことだと最終的に判断しました。

現在、日本では「2018年度問題」と呼ばれる大学受験者の急激な減少が加速的に進んでおり、今や、大学入学希望者が全員合格の時代を迎えています。他方、少子高齢化が急激に進んでいるとされています。この意味で、本学は現時点で言えば、帰属収入の90%を学生からの学納金によっていますので、学生の確保がとても大事であります。この点で、今年度は例年にまして、教員、職員が一体となり、「地元密着型」の短期大学、「実力養成型」の保育者養成校として受験者を最大限の努力を積み重ねて獲得する必要があります。

更に、2014年は相模原市内にある青山学院大学、麻布大学、桜美林大学、女子美術大学、そして、和泉短期大学が2014年11月18日に、市長の立ち会いのもとで締結した「包括連携協定」を誠実に実施し、地元、和泉短期大学のスキルをもって、幼児教育、保育、福祉の分野で、他大学と協力して、大いに貢献してゆくことが求められています。

現在、本学の校舎はすぐに建て替えをする必要はないとの診断が下がっていますが、そろそろ具体的に、将来構想を検討する時ではなからうかと思ひ、その検討にとりかかる必要があるのではないかと思慮しています。

現在、政府は経済政策の一環として、利益を上げた企業は出来るだけ従業員の賃金を少しでも上げて欲しいとしています。和泉短期大学としても、本来は賃金を上げることはなかなか難しい状況であります。なぜならば、それが退職金・ボーナス等にもすぐに影響してくるからです。その実施を何としても、慎重に、前向きに実施したいと思料していますが、これまで記してきたように、本学は教員、職員、法人役員、同窓会、後援会等がよき働きをしてくださっているので、なんとかして、学校法人の規則に則り、公務員並みの水準に少しでも近付けるように給与の改善に努力していきたいと考えています。

第5回リカレント講座【2014年12月13日(土)】

和泉短期大学 准教授
相馬 靖明

《就業から3年目までを対象に》

「こんな時どう伝える?」をテーマに、就業後3年目までを対象としたワークショップを行いました。卒業生だけでなく、地域の保育者(保育所・幼稚園・こども園・障がい者支援施設)の方たちが参加されました。前半を自分自身とクラスや子どもたちとの関係性をリフレクションしたり、ダミーの事例で出来事の「見立て」を表現したりするワークショップ、後半をホームカミング的に個々の卒業生の話を教員が聞く場面を想定していましたが、このような形態・内容での開催は今年度が初めてであり今後に向けて、参加者にはどのようなニーズがあるのかを探りながら進めていくことにしましたが、実際には、卒業生以外の方が半数以上で、同じ職場の数名がまとまっての参加が多く、保育園の2歳未満のクラスを担当している方たちが多かったため、当初の内容を少し変更して進めました。というのは、同じ職場のメンバーがいる状況では、なかなか自分の状況を話しにくいことも多いからです。

そこで、前半はペアになって自分の話を相手に聞いてもらう「私を語る10の言葉」というワークから、子どもと対話する場面でオープンエンドな問いかけを生み出す言葉遊びとして「たくさんあるよなぞなぞ」というワークなどをしました。

《どんなことに困っている?》

後半は、卒業生に限らず、数名の教員と2~3人程度のサークルでのフリートークをしました。職場の中に自分の話を聞いてもらえる関係性があることが就業直後を支えることとなります。

「今、困っていることはどんなことですか?」

1歳児の食事場面でのかかわりや、保護者に何かを伝える場面などが語られました。主に、互いの意思疎通を図る場面に困難を抱えているようです。

「そんな時に話を聞いてもらえる相手はいますか?」

「相手の話の中から、ヒントが得られたことはありましたか?」

困難な場面の解決には至らなくても、状況を伝える場面はあるようです。個別の話を聞いていると、その園に固有の課題と思われるものも見えてきます。

「なぜそのようなやり方をしているのかを先輩に聞きましたか?」

職場の中のルーティンワークには、そのそもそもを問われる機会がないままに引き続いていることがたくさんあります。そのことを明らかにしたところで初任~3年目までの方にとっては何の助けにもならないでしょう。

《他の園の話聞いて参考になりました》

今回の参加者との対話から見えてきたニーズとしては、他の職場ではどのように仕事が進められているのかを知る機会が欲しいということなのかもしれません。卒業生のスピーカー数名に現在の日常を語ってもらい、そのことをきっかけに参加者同士で自分の話を聞いてもらったり相手の話を聞いたりするような研修が求められているのでしょうか。



2014年度 入学前教育を受講して(2015年度入学者)

坂本 ことの(神奈川県立相模原青陵高等学校)

入学前教育を受講し、私はこれからの学校生活がとても楽しみになりました。

第1回の授業「卒業生・在校生メッセージ」では、これからの自分の力になる、為になるお話を聴くことができました。保育園・幼稚園へ実習に参加した時のお話や、学校生活のお話などがありました。実習の時の辛かったことや嬉しかったことなどを聴くことができ、入学後の実習がとても楽しみになりました。また学校生活でのお話は大変なことも多いと感じる反面、サークル活動や友人と過ごす日々が待ち遠しくなりました。

第2回目の授業「情報リテラシーシート・ポートフォリオの説明」を受講し、これからやるべきことを理解することができました。この事前学習の課題からポートフォリオ作成がすでに始まっているのだということを知り、改めてもう私たちは和泉生なのだと思感することができました。

これから始まる学校生活は大変なことも多いと思います。しかし、困難を乗り越え和泉での学校生活を楽しくしていきたいです。



嶋 みゆき(神奈川県立弥栄高等学校)

入学前教育を受講して、文章の書き方や先輩方の体験談など様々なことを学びました。

1回目の入学前教育はとても緊張しましたが、先生方も親しみやすく周りの人と交流する機会もたくさんあったので、楽しく授業を受けることができました。

先輩方から実習や就職についてのお話を聞き、ただ資料などを見ただけでは伝わらないことも聞いて感じることができました。私は保育士の仕事の楽しさ、大変さなども含めより多く深く学びたいと思いました。言葉使いや挨拶など普段からしていることが保育士にとって、とても大切なことだと感じました。また、文章やレポートの書き方も学びました。私は文章を書くことがあまり得意ではなく自信がありませんでしたが、これからは学んだことを参考にレポート作成などの提出物に取り組みたいと思います。

入学後は2年間という短い期間の中で大変なこともたくさんあると思いますが、入学前教育で学んだことを生かして精一杯頑張ります。



相模原市協働事業提案制度

「子育て家庭による地域子育て相互支援育成事業」

和泉短期大学は、相模原市協働事業提案制度により、2015年度から「子育て家庭による地域子育て相互支援育成事業」を実施することになりました。

今回、本学が提案した「子育て家庭による地域子育て相互支援育成事業」とは、子育て中の保護者が、和泉短期大学の環境を利用したり専門家である教員等からの助言を受けたりしながら、子育てサークル活動を企画・運営する実践を通して、各地域で子育てを共に支え合うことのできる人材育成を目指すものです。この事業の実施に当たり、その背景と概要を簡単にご紹介します。

4月より「子ども・子育て支援新制度」が本格実施され、一層子育て支援の充実が求められていきます。しかし、市内の子育て支援を担っている支援者の方からは、「保護者が何でもやってもらおうとする」という声が聞かれ、本来は保護者の子育てを「支える」ことが目的の子育て支援が、「肩代わり」してもらっている現状が見え隠れしています。これは、子どもや子育てを含めた様々なサービスが産業として溢れている現代社会において、保護者の子育てを観も子育てを外注する「サービス産業型」の考えになってしまっていると言えます。しかし子育ては本来、外注するものでもなく、多くの人々と連携して、共に支え、皆で楽しむものです。この「地域共生型」の子育て観へと転換していくことが、これからの子育て支援には欠かせないと考えています。このような背景の下で、本事業は子育て家庭と地域社会とのつながりを育み、子育て家庭同士やその周辺の地域の人々や施設などと連携することにより、子育てを軸に住みやすく豊かな生活環境の創造を試みるというものです。

具体的には、まず日頃の子育ての中で様々なことを行いたいと思っている保護者同士をつなげます。そして本学の教員等によるアドバイスを受けつつ、保護者による親子プログラムの企画・準備・運営を通して、相互子育て支援に必要な能力を保護者が身につけられるようにします。例えば、子どもと一緒にクッキングや音楽演奏をしたいと考えた場合、実現可能な場所や人材の調整、物品の調達、活動の準備、留意点の把握などが必要になり、結果として地域の自治会や団体、市役所などのネットワークを確立したり、子どもの育ちにとって必要な視点や技術を獲得したりすることができるのです。この事業の成果と展開の後には、各地域で子育て中の保護者が自主的に集い、様々な人々とのネットワークをもって子育ての相互支援活動を発展させていくことに繋がると考えています。

本学は、キャリアデザインセンターの質の高い教育環境・保育環境を利用し、子育て支援プログラム「はっぴい」を教職員と学生とが協働で運営することにより、子どもや保護者に寄り添う保育方法や保育観の育成を学生に対して行ってきています。本学が培ってきた保育者養成のノウハウと専門性を活かし、本学の理念である人と人が助け合える人材の育成を地域貢献として行っていきたくと思っています。

和泉短期大学 准教授
松山 洋平



北里大学との共同プロジェクト

「こども体験イベント」が開催されました

2014年12月7日(日) 10:30~15:00、ユニコムプラザさがみはら(ポーノ相模大野)が、子どもたちの歓声と熱気に包まれました。昨年に引き続き開催された「こども体験イベント ここに魚が?!遊び場が?! ~作って、遊んで、見て、知って~」と名づけられたイベントには、来場者635名(大人 305名、乳幼児 244名、小学生 86名)、関係者も合わせれば700名を超える人が参加しました。

イベントの内容は次の通りです。①「おもちゃ作り」(和泉短期大学ボランティアサークル他)②パフォーマンスステージ【手遊び・歌(和泉短期大学ボランティアサークル)エプロンシアター他(布おもちゃサークル・ピノキオ)手話・歌(北里大学・手話サークル)ジャグリング(北里大学・ジャグリング部)③わくわく!冬の輪投げ ~魚つり、輪投げ他~(和泉短期大学・北里大学)④「タコかいぼう教室」(アクアカルチャー)⑤「ミニ水族館」(北里アクアリウム・ラボ)⑥「冒険遊び場」(和泉短期大学冒険遊び場同好会、相模原市周辺のプレイパークの皆様)

このイベントの主催は「はっぴいアクアリウムプロジェクト」(北里大と和泉短大の共同プロジェクト)で、文部科学省補助金「平成24年度 産業界のニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業」の一環として企画、運営されています。2013年6月の「子育てひろばはっぴい」(北里大学と共催)に始まり、2014年11月23日(土)「こども体験イベント ここに魚が?!遊び場が?! ~作って、遊んで、見て、知って~」に続き、今回で3回目の開催となりました。



参加した学生の感想

2年生 永田 道

北里大学と協働しおこなった今回のプロジェクトは、自分たちの普段の授業での学びや実習で得た経験を活かす良い機会となりました。当日はたくさん子どもたちが参加してくれ、自分たちが企画したゲームやスタンプラリーなどを楽しむ子どもたちの姿を見て、子どもに携わる職業の魅力ややりがいを感じることができました。今回得た学びを後輩に引き継ぎ、これからも地域に根ざした活動をおこなってほしいと思います。



活躍する卒業生

PART VIII

社会福祉法人春献美会 はるひ野保育園

園長 福田 薫

1987年卒業



障害児の施設で働きたいと志し、和泉短期大学に進学したのは、今から三〇年も前になりました。長野の虚弱児施設で三週間実習し、就職したいと希望しましたが求人がなく、川崎市を受験して合格したものの、就職先は保育園でした。思い描いていた職場ではありませんでしたが、保育という仕事の楽しさに出会い、毎日がとても充実していました。「こんな保育がしたい」と憧れる先輩に恵まれて、今振り返ると勢いだけで進めてきた保育もたくさんありました。色んな人に助けられて保育園で一年間、結婚し長男を出産し、産休・育休も取らせてもらいました。がむしゃらに仕事してきただけで、始めて働くお母さんの気持ちになります。その後、退職。子どもは長男の後に女、男の双子と四人になりました。十年間子育てを楽しみました。

もう現場で仕事をすることはないだろうと思いましたが、縁あって二年前に現在の社会福祉法人春献美会のはるひ野保育園で園長として仕事をすることになりました。川崎市麻生区にあり、周りを緑に囲まれた恵まれた環境です。園児は現在一二五名になり、職員は非常勤も含めると三四名の施設です。一時保育利用児や、地域子育て支援センターに遊びに来てくれる親子も毎日います。子どもたちの健やかな成長を願い、職員が生きていくと働ける職場を目指して、手探りの中で無我夢中の二年間でした。「園長先生、ちょっといいですか?」保護者も職員も、何でも気軽に相談したいと思っています。誰でも人は忙しそうにしている人に相談しようとは思わないでしょう。夕方、保護者が迎えに来る時間は事務室から声をかけます。職員が相談に来るのは勤務が終わって、保育を抜けてからです。夕方から私の一番優先しなければならぬ仕事が始まります。

私には、就職してすぐに入った民間の研究団体(子ども遊びと手の労働研究会)があります。出産の度に休みながら川崎市を退職してからもずっと続けてきました。今、私が園長として少しのしに立って、この学が一年の保育経験だと思っています。毎日保育園を出るのは、閉園の二〇時をかなり過ぎてからになります。わが子はすでに夫が寝かした後ということも多々ありますが、園長の命令を受け取った日から、私が出来ることを私らしく、精一杯努力していこうと思っています。

櫻井奈津子教授が全国保育士養成協議会会長より表彰されました



児童福祉学科 櫻井奈津子教授(宗教部長)が、平成26年度全国保育士養成協議会教職員表彰を受けられました。この表彰は、永年にわたり保育士養成事業の発展に寄与し、顕著な功績があった教職員に贈られるものです。2月4日(水)教授会にて佐藤守男学長から表彰状が手渡されました。

児童福祉学科 教授 櫻井奈津子(宗教部長)

神様のお恵みとお導き、そして多くの方々のおかげによってこれまで与えられた役割を果たすことができましたこと、感謝いたします。児童養護施設で働く機会を与えられたことは、いくつかの「偶然」の賜でした。そこで出逢った本学卒業生の真摯な姿が、私を本学へと導ききっかけになったと思います。今回の受賞は「さらに精進せよ」という神様からのメッセージと受け止め、これからも努力して参りたいと存じます。

BOOK INTRODUCTION

井狩芳子教授が『演習 保育内容「健康」—大人から子どもへつなぐ健康の視点—』を出版しました

井狩芳子教授が、子どもの心身の健康を保障するために必要な視点について、保育者を志す人がワークに取り組みながら主体的に学べる『演習 保育内容「健康」—大人から子どもへつなぐ健康の視点—』を出版しました。

子どもの心身の発達の特徴とは?その発達段階にふさわしい体験とは?体験をすることで、どんな育ちが期待できるのか?これらについて、やさしく解説されています。

保育者や養育者子どもたちのすこやかな育ちを保障するためには、何よりもまず自分の心身の健康を保つことが必要です。ところが、近年、世の中の急激な変貌によって、保育者養成校に入学してくる若者や、子どもたちを直接的・間接的に支える大人の健康課題が際立つようになりました。そのため、本書には、子どもの心身の健康を保障するという視点はもとより、「高校を卒業してまもなく、保育内容の各論の学びをスタートする学生の皆さん」そして、「これから乳幼児の子育てを始める方々」の健康も保障するべく、大人についての健康支援の視点も取り入れています。日本の子供の健康課題をイメージしながら、そして、ご自身の体を客観的に見つめながら読み進めていただきたいと思います。(本書、「はじめに」より) 発行: 萌文書林 定価(本体1,800円+税) ISBN 978-4-89347-209-0



戸塚恵子准教授が『特養ナースの思い』を出版しました

戸塚恵子准教授が、医療と福祉の連携や特別養護介護のあり方について研究成果をまとめた『特養ナースの思い』を上梓しました。

「医療(看護)と福祉の境目は、より近くより複雑に、接点も多く、重なり合うように変化してきているように感じます。…今後、医療(看護)と福祉ではなく、「医療福祉」という統合させた視点や考え方も、重要になってくると思われます。」(本書「あとがき」より)



入所待ち52万人! その特養で働く看護師の思いとは? 終の住処と言われる特別養護老人ホーム(特養)。福祉施設であるにも関わらず、入所者の重度化に伴い増えている医療行為。入所者の生活が優先か?医療が優先か?その間で揺れる看護師(ナース)の思いを分析。その中で見つける看護師のやりがいとは…。 発行: 牧歌舎 発売 星雲社 定価(本体2,000円+税) ISBN978-4-434-19122-0

2014年度『教育環境充実資金』募金のお礼とお願い

学生の教育環境を一層充実させるために、夏期休業期間に1号館、2号館の屋上防水塗装工事を行い、104、203、303各教室にプロジェクター、スクリーンを設置しました。多くの皆様にご賛同を頂いた寄付金を活用させていただきます。

引き続き教育内容充実に必要な費用、施設拡充のため「教育環境充実資金」募金への協力をよろしくお願い申し上げます。

- ご寄付者数 7件 (2014年12月1日～2015年2月28日)
- 募金額 **190,000円**
- 対象事業募金合計額 84件 1,307,000円(2015年2月28日現在)
- 募金対象事業
 - 1) 1号館、2号館屋上防水塗装工事 (工事完了)
 - 2) 教室プロジェクター、スクリーン設置 (設置完了)
 - 3) 震災・災害対策他
- 募金目標額 5,000,000円
- 期間 2014年5月～2015年3月
- 寄付金 1口5,000円
- 募金担当 和泉短期大学『経理・施設ユニット』[042-754-1133] お問い合わせください。



寄付者一覧 (敬称略)

2014年12月1日
～
2015年2月28日

小倉 真由美 平田 美智子
平塚 豊 瀬戸 朝子
佐藤 建夫 深町 和哉
スマイリングパートナーズ
チャリティゴルフ大会実行委員会

ご寄付をいただきました皆様方に心から感謝申し上げます。2014年度の上記期間の募金につきまして寄付者ご芳名をまとめさせていただきました。なお、法人事務局が受理いたしました日付で処理いたしております。多少のずれが生じている方もありますが何卒ご了承をお願いいたします。

法人事務局

読売ジャイアンツ元コーチ篠塚和典さんより本学に対して、寄付金を頂きました

2015年1月18日(日)に本学で町田市にある児童養護施設バット博士記念ホームの子どもたちのための第9回野球教室を篠塚さんに行っていただきました。その際、篠塚さんから土橋事務局長に寄付金を頂きました。

この寄付金は、篠塚さんが実行委員長となり、2014年11月27日(木)に開催された「第10回スマイリングパートナーズチャリティゴルフ」時のチャリティーオークションの売り上げの中から頂いたもので、参加者の方々の心のこもった寄付金です。オークションの売り上げは、フィリピン、ネパール、スリランカの子どもたちの教育支援、バット博士記念ホームの子どもたちの支援などを目的に寄付されています。貴重な寄付金を本学の「教育環境充実資金」として使用させていただきます。



2014年度フェア開催

2014年5月「学校法人和泉短期大学創立58周年」を記念して初めてフェアを開催しました。「可愛いだけでなく美味しかった」「ポスターを見て友達と一緒にワクワクしてました」「いつもより安いコンビニにちょっと買い過ぎたかも(笑)」など、学生から「また企画してほしい!」との嬉しいリクエストを沢山いただきました。年1回予定のフェアでしたが、10月に「サンクスギビングフェア」、12月に「クリスマスフェア」、3月には卒業を記念して「グラデュエーションフェア」をリクエスト開催しました。回を重ねるごとに人気は急上昇。学生のキラキラした笑顔を沢山見ることができました。2015年度も引き続き開催いたします。本学及び学生のためにフェアにご協力いただきました協力会社の皆さまに感謝いたします。



イベント	食堂	Yショップ	自動販売機 無料提供	
	内容		メーカー	杯数
第1回 創立58周年フェア 2014/5/7(水)	タコライス 100円(100食)	全品 20%off	ジャパン・ビバレッジ	130
	カレーライス 100円(50食)		コカ・コーラ	200
第2回 サンクスギビングフェア 2014/10/22(水)	ハロウィンオムライス 100円(100食)	全品 20%off	コカ・コーラ	200
	カレーライス 100円(50食)			
第3回 クリスマスフェア 2014/12/17(水)	クリスマスサンドリーチキン 100円(150食)	全品 20%off	コカ・コーラ	200
	カレーライス 100円(50食)			
第4回 グラデュエーションフェア 2015/3/16(月)	ハートのモッツアレラハンバーグプレート 100円(80食)	全品 20%off	コカ・コーラ	100
	カレーライス 100円(20食)			

訃報



和泉短期大学卒業生であり、事務局職員であった東(旧姓角田)啓子さんが2014年12月6日に召天されました(享年54歳)。ご遺族のみなさまの上に、神様のお慰めと平安をお祈りいたします。

1980年5月和泉短期大学創立15周年記念事業において、当時2年生であった角田さんが作詞作曲した「和泉短期大学カレッジソング」が最優秀に選ばれました。
現在も、親しみやすいカレッジソングは、本学学生に歌われ続けています。

経歴

- 1979年4月 児童福祉学科入学 学友会所属、学外研修会委員長
- 1981年3月 児童福祉学科卒業
- 1987年3月 玉川大学文学部教育学科卒業
ひかりの子幼稚園、ドレーパー記念幼稚園、川崎市社会福祉事業団 高齢社会福祉総合センターにて勤務
- 1991年2月～1993年3月 和泉短期大学教務課実習係 職員

故 土橋 和秀氏(土橋 正文 本法人事務局長 御令兄 2014.8.26)
故 中田 和三郎氏(土橋 正文 本法人事務局長 御岳父 2014.9.4)

故 佐藤 みち子氏(佐藤 公啓 本法人理事(前事務局長) 御母堂 2014.10.1)
故 加藤 眞理子氏(和泉短期大学 元教授 2014.12.30)

法人関係者一同、ご家族の上に慰めと平安がありますよう、衷心より深くお祈り申し上げます。